

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079800191		
法人名	社会福祉法人 福智会		
事業所名	グループホーム ふくち		
所在地	〒822-1212 福岡県田川郡福智町弁城4193-28 (電話) 0947-22-2101		
自己評価作成日	平成 30 年 6 月 29 日	評価結果確定日	平成 30 年 9 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開園当時から取り組み目標「利用者一人ひとりの生きがい作り」は、利用者の高齢化や体調の変化に伴い、今まで出来ていた事が困難になってきたが、今まで通りのその人の生き方を模索しながら、全体で出来る事に重点を置くようにし、外出支援（個別ショッピング・バスハイク・いろりの郷）毎日のレクリエーションの充実させ、明るく、楽しい元気なホームを目指している。地域交流として「ふくちの日」「畑の日」を行っており、身近な地区の老人会の皆様や民生委員の方にも参加して頂くことにより、地域のホームとして皆様に親しんで頂けるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成 30 年 7 月 18 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然豊かな地域に存在し、地域の方々との協力で畑栽培を行い、野菜や果物を利用者と共に楽しんでいる。又、地域の祭りや行事参加、周辺での花見やホタル見学に出かけるなど、生活を楽しむ工夫がされている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は「人権尊重」「能力発揮」「地域交流」の3本柱から成り立っている。実践のために、年度目標を定め職員と共に、日々のサービス提供に努めている。	事業所理念である「人権尊重」「能力発揮」「地域交流」の3本柱が職員全員に周知されている。各年度目標が立てられ、研修や交流に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事 神幸祭は毎年地域の子供会の獅子舞が毎年来園する。小学校からの運動会の招待がある。月に1～2回の畑の日には地域の老人会の方やボランティアが参加されている。	「畑の日」が月1回あり、地域の老人会やボランティアと共に野菜などを作っている。小学校の運動会招待や地域行事「神幸祭」にも参加している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域の窓口になっている‘ふくちの日’に、民生委員の方に参加して頂き、ホームの内容や利用者の方を知って頂くようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容等については、前向きに対応しサービス向上に努めている。	運営推進会議は2月に1回開催している。地域包括の職員や利用者、家族、民生委員が参加している。家族から安全管理などの要望があり、防犯カメラが設置された。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会を通じて行政担当者や包括支援センターの担当者と意見交換を行いながら連携をとっている。	地域包括や社協などに2月に1回程度、訪問している。グループホーム協議会や研修会などにも参加し、ホームの機関紙を届けたりしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の施設同様に拘束廃止検討委員会を設け、身体拘束や言葉の拘束だけではなく、青アザの発生状況についても観察し青アザ予防ができるように取組んでいる。	身体拘束防止委員会を置き、マニュアルを作成し、研修を開催する等、職員と共に取り組みがされている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束廃止検討委員会を設置し、併設施設と共に協力しながら、さまざまな角度からの検討を重ね虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見制度について話合っている。	管理者が社会福祉協議会の研修を受け、職員に伝達研修を行っている。権利擁護のパンフレットや成年後見制度の資料を置き、職員周知を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表や家族代表に出席して頂き、運営に反映させる努力をしている。また、家族の面会時に、意見や提案などを確認しサービス提供に反映させている。	運営推進会議に利用者代表と家族が参加して、生活や行事への意見が出され、運営の参考にしている。利用者の意見により外出先の場所が変更される。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、その他の機会を作り職員と様々な問題についても話し合っている。必要に応じて個別でも話し合いを行っている。	職員会議等で運営に関する話し合いが行われている。スタッフ・アンケートが取られ、職員から意見などを出しやすい工夫がされている。2ユニットが一体として運営され、職員間の交流がよくされている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、職員個々に応じた職務目標設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心を持って働けるよう環境づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員募集、採用にあたっては、年齢・性別を問わないようにしている。また、職場では職員の特性に応じた役割分担を心がけ、基本方針として定年まで働けるようにしている。</p>	<p>職員採用などにおいて、性別や年齢などによる差別はされておらず、定年後の継続雇用にも取り組んでいる。職員育成や昇進などにおいては公平性に注意して、働きやすい環境に心がけている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育の研修等は極力参加するようにしている。また、利用者の尊厳に対する人権等の啓蒙活動については、ケアカンファレンス・朝礼・終礼等を通じて行っている。</p>	<p>外部研修で人権尊重研修に参加し、伝達研修を行っている。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの職務能力に応じた年間職務目標を管理者・職員面談の上で決定し、年間を通し目標達成に取り組んでいる。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に参加し、おのものが抱えている問題点に考察を重ね、サービス向上を取組んでいる。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談に来られた時より、本人様や御家族が安心して話の出来る環境作り、本人様の困っていることや不安、要望等に傾聴していくことで、本人様の置かれている状況を理解するように努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談に来られたときより、これまでのご家族の苦勞を労い、入所希望に至った経緯等に傾聴するようにしている。その上で、御家族の立場に立ち共に協力し合っていける関係作りに努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じ必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所、病院等の紹介も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活歴や話し合いの中から、出来る事と得意なことは本来の力が発揮できるように支援し、食事の準備、後片付け、買い物なども共に行っていくように心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ面会に来て頂くようご家族に声掛けをしている。特に誕生日会・家族会・福智園祭り・敬老会等の行事には参加していただくようにしている。遠方の御家族には便りや電話にて、利用者様の状況を知らせている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人にとっての関係が深い方が、気兼ねなく来訪できるよう心がけ、又、利用者の生活地域の交流に参加し、知人や友人との関係が途切れないように支援している。	入所時にご本人の友人などを家族等を通じて把握している。利用者と共に地域に出かけ、交流できる配慮がされている。商店街の地域の認知症カフェでの交流がされている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ利用者同士の関わりが深まるように、居室で過ごす事を極力控え、食堂や廊下ソファ等で過ごせるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり併設の施設へ移転されても、面会に行ったり、ご家族とも連絡を取り合い訪問する機会を設けたりして、よりよい人間関係を保っていただけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人様の生活・職歴・病歴・生きてきた足跡等で見出し、本人様の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るように心がけている。	一人ひとりの日常の生活が安定して、落ち着いたものになる工夫がされている。廊下に置いてあるソファで休憩したり、庭への散歩の際に、利用者への暖かな声掛けをしている。担当制で職員と利用者の関係性を図っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様との関わりのなで生活歴、暮らし方、生活環境を把握しサービスに提供していくようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム、体調、気分の変化を確認しながらサービスを実践している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の要望を聞き取ったあと、計画作成担当者が中心となり、カンファレンスにて協議をし、本人様、御家族様の意向に基づいた利用者本位の計画を作成している。	本人や家族からの要望を聞いた後に、利用者担当職員をはじめ、各職員からの意見、情報を聞いて、計画作成担当者が一人ひとりに合わせた介護計画を作成、本人や家族に同意を得ている。また、3カ月に1回は見直しを行い、現状に即した介護計画にしている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	I padに個々の食事・水分・排泄・バイタル等の身体状況、日々の暮らしの様子、気づき等を入力し記録している。I padで全利用者のデータが見れるので、朝礼・終礼の際、申し送りを行い職員間で共有し継続したケアを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じ、御家族と相談しながら早期の病院受診や定期受診を行ない安心した生活が送れるように心がけている。また、ショッピング・バスハイク等を導入している為、個々の要望に応じた対応をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し行政・地域の福祉関係者より助言を頂き日々のサービス提供に生かしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人かかりつけ医があれば、基本的には継続し医療が受けられるようにしている。	協力病院はあるが、本人や家族が以前からのかかりつけ医を希望されれば、その希望の病院に職員が送迎して受診している。受診した内容は、ご家族に電話で伝えたり、事業所に来てくれた時に説明している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師、ホームの看護師や協力病院の看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院側に本人の特徴、生活状況等を伝え認知症の進行や身体機能の低下に配慮しながら、主治医、御家族と情報交換を行い早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人、御家族の希望を重視し今後の方針について、御家族、主治医と連携をとりながら検討するようにしている。	重度化や医療処置が必要になった場合は、ご家族と相談し、同じ敷地内の同法人他施設への入居等を検討している。重度化や終末期のあり方について事業所内で方針を検討している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命訓練、誤嚥時対応を年に1回実施している。マニュアルに基づく勉強会を行い職員全体に周知徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者全員の参加や老人会の方々の参加も促し、消防署の協力も得て定期的に、日勤帯・夜間帯における防火訓練を実施。訓練を通じ問題の洗い出しを行い利用者の命を守る対策の向上に繋げている。併設の施設との協力体制も構築している。	2カ月に1回、夜間、風水害、地震、防犯、救急救命、総合訓練と様々な災害に対応できるように、毎回想定内容を変更しての訓練を実施している。避難訓練は、利用者も参加して、想定内容に合わせ事業所独自の場合と法人合同の場合で実施している。総合訓練では消防署や地域の方々にも参加してもらい、協力体制を整えている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が居室に居る時や排泄、入浴時は特にプライバシーに配慮した同性介助を基本としている。言葉かけには、尊厳を傷付けないように配慮している。	入浴介助は、基本的には同性介助になるように職員のシフトを組んでいる。居室に入る時は必ず声掛けをして、プライベートな空間を意識している。また、他の利用者の前で個人の話をしてはいけない時は、誰の話をしているか分からないように、居室に花の名前等の愛称をつけており、その愛称で職員は話している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け時は、意思が出せるような声掛けを常に行っている。外出時や入浴時間の選択、行事食のメニュー、ショッピング、散歩、ドライブ等については希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で過ごす事を好む人、煩わしいと感じる方がいる為、「一人ひとり」の思いに合わせての行事参加を促したり、したいことを選択が出来るようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員によるカットや白髪染を行っている。男性は、毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じて化粧、ネイルを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせた食形態を考慮したり好みによるパン食や行事食の希望メニュー等に配慮している。食事の準備、調理、盛り付け配膳、下膳、後片付けも無理のない範囲で手伝ってもらっている。	食事の下ごしらえや盛り付け等の利用者が出来る事は一緒に調理して、食事は職員も一緒に同じテーブルで食べている。事業所の畑で採れた野菜を使った料理や、ウッドデッキでのお茶会、パーベキュー等して楽しめるようにしている。また、利用者の好みを献立に取り入れている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は、食材業者が行っている。利用者のアルブミン値を定期受診で測定し栄養状態を確認している。毎日の食事摂取や水分の種類摂取もI padに入力し、日々の栄養管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食後の歯磨き、口腔ケアは習慣化している。利用者の方の能力に応じた支援で清潔保持に努めている。義歯使用者は、夕食後に預り義歯洗浄剤で、洗浄、除菌をしている。平成30年6月より訪問歯科導入した。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し定期的にトイレの声掛けや仕草、表情から判断し誘導を実施している。リハビリパンツ、尿取りパットを使用しないですむように支援している。	入居時にはほとんどの方がおむつを使用しているが、その方の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、徐々にリハビリパンツ、そして尿取パットへと移行し、基本はトイレで排泄できるように支援している。また、夜間はぐっすり眠れるように、利用者が不快に思わないパットを選んで使用している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便形態や排便間隔をI padに入力し水分摂取状況と確認しながら把握している。食物繊維の多い食材の摂取、体操、腹部マッサージを行ない便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日、午前・午後問わず入浴が出来るようにしている。希望時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。	入浴は同性介助を基本として、毎日午前午後共に対応できる。ほとんどの利用者は2日に1回入浴している。入浴を嫌がる時は、お風呂という言葉を使わないで「髪の毛を染めましょう」等と誘ったり、どうしても拒否ある時は清拭をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人が眠くなった時に眠るようにしている。極力、薬を使用せず安眠できるように心がけている。寝つきの悪い時や不穏時は、和室を利用したり、お茶を提供し会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時は、プレート、名前、顔、日にち、朝・昼・夕の確認を行い飲み込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合は情報を細かく行い変化があれば受診を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話の中から、利用者の得意なことや興味のある事を引き出して、日々の生活に楽しみごとや気分転換等の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事だけではなく本人の希望により個別ショッピングに行かれている。季節の花見学、その時々に応じて対応している。	季節の花やホタル、イルミネーション観賞等の行事だけでなく、個別の要望での外出支援も行っている。また、通院の帰りに買い物に寄ったり、アイスクリームを食べてきたりしている。たまに外で食事したいとおにぎりを作って出掛けたりする。また、いろりの郷という古民家利用の逆デイを法人で運営しているので、そこへ昼食を食べに行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、自己管理をしてもらっている。出来ない方には、ショッピング等で、お金を手渡し支払いが出来るように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、行事予定表や定期的に写真やふくち便りを家族に送り利用者様の様子が判るようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い食堂、ウッドデッキがあり日中の強い日差しは、レースカーテンやすだれで遮光している。換気には配慮し、トイレの尿臭などしないように、こまめに清掃している。	朝の換気や網戸の設置など風通しをよくして、不快な臭いが籠らないようにしている。共有空間の色々な所に温湿度計を設置しており、温度、湿度に配慮している。空間の所々にソファを置いており、独りになりたいが、部屋の中でなく、皆の見える所がいいという利用者が過ごす場所を設けている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファ、玄関ベンチ、和室、食堂など、それぞれ思い思いの過ごし方が出来るように場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、思い出の品、馴染みの品、季節の花やレクリエーションで作った作品等を居室に置くことで、安心感や居心地の良さを見たり、感じたりしてもらえるようにしている。	居室は、利用者の家として馴染みのある椅子やテーブル等を持って来てもらうようにご家族にはお願いしている。帰宅願望の強い利用者の嫁入り道具の筆箱などを持って来てもらったなら、訴えがなくなった事もあった。また、事業所で猫を飼っており、利用者から可愛がられている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内での全てバリアフリーになっている。必要箇所への手すりの設置。トイレは4ヶ所設置され、センサー式蛇口の洗面所、滑りとめマット使用した浴槽がある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は「人権尊重」「能力発揮」「地域交流」の3本柱から成り立っている。実践のために、年度目標を定め職員と共に、日々のサービス提供に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事 神幸祭は毎年地域の子供会の獅子舞が毎年来園する。小学校からの運動会の招待もある。月に1～2回の畑の日には地域の老人会の方やボランティアが参加されている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域の窓口になっている‘ふくちの日’に、民生委員の方に参加して頂き、ホームの内容や利用者の方を知って頂くようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容等については、前向きに対応しサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会を通じて行政担当者や包括支援センターの担当者と意見交換を行いながら連携をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の施設同様に拘束廃止検討委員会を設け、身体拘束や言葉の拘束だけではなく、青アザの発生状況についても観察し青アザ予防ができるように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束廃止検討委員会を設置し、併設施設と共に協力しながら、さまざまな角度からの検討を重ね虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見制度について話合っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表や家族代表に出席して頂き、運営に反映させる努力をしている。また、家族の面会時に、意見や提案などを確認しサービス提供に反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、その他の機会を作り職員と様々な問題についても話し合っている。必要に応じて個別でも話し合いを行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、職員個々に応じた職務目標設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心を持って働けるよう環境づくりに努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集、採用にあたっては、年齢・性別を問わないようにしている。また、職場では職員の特性に応じた役割分担を心がけ、基本方針として定年まで働けるようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の研修等は極力参加するようにしている。また、利用者の尊厳に対する人権等の啓蒙活動については、ケアカンファレンス・朝礼・終礼等を通じて行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの職務能力に応じた年間職務目標を管理者・職員面談の上で決定し、年間を通し目標達成に取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、おのものが抱えている問題点に考察を重ね、サービス向上を取組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談に来られた時より、本人様や御家族が安心して話の出来る環境作り、本人様の困っていることや不安、要望等に傾聴していくことで、本人様の置かれている状況を理解するように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談に来られたときより、これまでのご家族の苦労を労い、入所希望に至った経緯等に傾聴するようにしている。その上で、御家族の立場に立ち共に協力し合っていける関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	相談内容に応じ必要と思われる場合は、 他のサービスの説明や他の事業所、病院等 の紹介も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活歴や話し合いの中から、出 来る事と得意なことは本来の力が発揮で きるように支援し、食事の準備、後片付け、 買い物なども共に行っていくように心がけ ている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	折に触れ面会に来て頂くようご家族に声 掛けをしている。特に誕生日会・家族会・ 福智園祭り・敬老会等の行事には参加して いただくようにしている。遠方の御家族に は便りや電話にて、利用者様の状況を知ら せている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人にとっての関係が深い方が、 気兼ねなく来訪できるよう心がけ、又、利 用者の生活地域の交流に参加し、知人や友 人との関係が途切れないように支援してい る。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ利用者同士の関わりが深まる ように、居室で過ごす事を極力控え、食堂 や廊下ソファ等で過ごせるように支援し ている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	入院されたり併設の施設へ移転されて も、面会に行ったり、ご家族とも連絡を取 り合い訪問する機会を設けたりして、より よい人間関係を保っていけるように努めて いる。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人様の生活・職歴・病歴・生きてきた足跡等で見出し、本人様の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るように心がけている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様との関わりの中で生活歴、暮らし方、生活環境を把握しサービスに提供していくようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム、体調、気分の変化を確認しながらサービスを実践している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の要望を聞き取ったあと、計画作成担当者が中心となり、カンファレンスにて協議をし、本人様、御家族様の意向に基づいた利用者本位の計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	Ipadに個々の食事・水分・排泄・バイタル等の身体状況、日々の暮らしの様子、気づき等を入力し記録している。Ipadで全利用者のデータが見れるので、朝礼・終礼の際、申し送りを行い職員間で共有し継続したケアを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じ、御家族と相談しながら早期の病院受診や定期受診を行ない安心した生活が送れるように心がけている。また、ショッピング・バスハイク等を導入している為、個々の要望に応じた対応をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し行政・地域の福祉関係者より助言を頂き日々のサービス提供に生かしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人かかりつけ医があれば、基本的には継続し医療が受けられるようにしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師、ホームの看護師や協力病院の看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院側に本人の特徴、生活状況等を伝え認知症の進行や身体機能の低下に配慮しながら、主治医、御家族と情報交換を行い早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人、御家族の希望を重視し今後の方針について、御家族、主治医と連携をとりながら検討している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命訓練、誤嚥時対応を年に1回実施している。マニュアルに基づく勉強会を行い職員全体に周知徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者全員の参加や老人会の方々の参加も促し、消防署の協力も得て定期的に、日勤帯・夜間帯における防火訓練を実施。訓練を通じ問題点の洗い出しを行い利用者の命を守る対策の向上に繋げている。併設の施設との協力体制も構築している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が居室に居る時や排泄、入浴時は特にプライバシーに配慮した同性介助を基本としている。言葉かけには、尊厳を傷つけないように配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け時は、意思が出せるような声掛けを常に行っている。外出時や入浴時間の選択、行事食のメニュー、ショッピング、散歩、ドライブ等については希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で過ごす事を好む人、煩わしいと感じる方がいる為、「一人ひとり」の思いに合わせての行事参加を促したり、したいことを選択が出来るようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員によるカットや白髪染を行っている。男性は、毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じて化粧、ネイルを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせた食形態を考慮したり好みによるパン食や行事食の希望メニュー等に配慮している。食事の準備、調理、盛り付け配膳、下膳、後片付けも無理のない範囲で手伝ってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は、食材業者が行っている。利用者のアルブミン値を定期受診で測定し栄養状態を確認している。毎日の食事摂取や水分の種類摂取もIpadに入力し、日々の栄養管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食後の歯磨き、口腔ケアは習慣化している。利用者の方の能力に応じた支援で清潔保持に努めている。義歯使用者は、夕食後に預り義歯洗浄剤で、洗浄、除菌をしている。平成30年6月より訪問歯科導入した。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し定期的にトイレの声掛けや仕草、表情から判断し誘導を実施している。リハビリパンツ、尿取りパットを使用しないですむように支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便形態や排便間隔をIpadに入力し水分摂取状況と確認しながら把握している。食物繊維の多い食材の摂取、体操、腹部マッサージを行ない便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日、午前・午後問わず入浴が出来るようにしている。希望時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人が眠くなった時に眠るようにしている。極力、薬を使用せず安眠できるように心がけている。寝つきの悪い時や不穏時は、和室を利用したり、お茶を提供し会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時は、プレート、名前、顔、日にち、朝・昼・夕の確認を行い飲み込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合には情報を細かく行き変化があれば受診を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話の中から、利用者の得意なことや興味のある事を引き出して、日々の生活に楽しみごとや気分転換等の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事だけではなく本人の希望により個別ショッピングに行かされている。季節の花見学、その時々に応じて対応している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、自己管理をしてもらっている。出来ない方には、ショッピング等で、お金を手渡し支払いが出来るように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、行事予定表や定期的に写真やふくち便りを家族に送り利用者様の様子が判るようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い食堂、ウッドデッキがあり日中の強い日差しは、レースカーテンやすだれで遮光している。換気には配慮し、トイレの尿臭などしないように、こまめに清掃している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファ、玄関ベンチ、和室、食堂など、それぞれ思い思いの過ごし方が出来るように場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、思い出の品、馴染みの品、季節の花やレクリエーションで作った作品等を居室に置くことで、安心感や居心地の良さを見たり、感じたりしてもらえるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内での全てバリアフリーになっている。必要箇所への手すりの設置。トイレは4ヶ所設置され、センサー式蛇口の洗面所、滑りとめマット使用した浴槽がある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		